

第4学年2組 総合的な学習の時間学習指導案

指導者 ○○ ○○

1 単元 「広げよう ふれ合いの輪」

2 学習の構想

【このような子どもだから】

本学級の子どもは、これまでに「伝えよう、よしとみ自まん」の学習において、公園造りに関わった地域の方の話聞いて思いや願いを考えたり、公園の使われ方を調べたり、公園を大切に使うために自分たちにできることをまとめたりするなど、探究的な学習に資する活動を行ってきた。また、道徳科の学習では、「車いすに乗っている人を押しているときの主人公の気持ち」を考える学習を通して、障がいのある方と接するとき大切な心について考えてきた。

キャリア教育に関するアンケート（評定尺度法4点）の結果の平均値を見ると、分からないことやもっと知りたいことがあるとき、自分から進んで本で調べたり、質問したりしている子どもは3.38Pであった。また、聞く人が分かりやすいように、自分の考えや気持ちを伝えようとしている子どもは3.25Pであった。その一方で、何かをするとき、見通しをもって計画的に進めたり、よりよい方法を考えようとしていたりしている子どもは2.96Pであった。

これらのことから、他者に働きかけたり、情報を理解・選択・処理したりする意欲がある子どもは多いが、課題の解決に向けて、見通しをもって計画的に進めたり、よりよい方法はないか考え、付加・修正したりすることに課題が見られる。

【このような内容を】

本単元は、小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編に例示されている現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題「地域の福祉」を探究課題として設定されたものである。

九州一小さな町である吉富町だからこそ、障がいのある方やお年寄りなどの様々な地域の方とふれ合う機会がある。その機会を生かし、自分とのつながりを明らかにしたり、直接体験を行ったり、自分たちに何ができるかを考えたりする活動を通して、自己の生き方を考えることができるようにすることをねらいとしている。ここでは、障がいのある方と出会い、その方々にとって住みよい町になっているかを調べるなどして、誰もが住みよい町になるための「町づくりプラン」を提案する活動を行う。

このことは、日常生活や社会に関わる探究課題を見つけて解決しようとする資質・能力を育成する上で大変意義深い。

【このような指導で】

本単元の指導にあたっては、障がいのある方と出会い、その方々にとって住みよい町になっているかを調べるなどして、誰もが住みよい町になるための「町づくりプラン」を提案することができるようにする。

そのために、本時の指導にあたっては、まず、「つかむ・見通す」段階では、本時のめあてをつかむことができるように、写真や映像等を基に前時の内容を振り返る活動を設定する。

次に、「つくる」段階では、バリアのある不自由さに気付くように、様々な場で車いす体験をする活動を設定する。

そして、「深める」段階では、バリアのある生活の不自由さについて理解することができるように、実際に車いすを使って生活している方と交流する活動を設定する。

最後に、「振り返る」段階では、学習したことを整理することができるように、2つの視点を基に、振り返る活動を設定する。

【このような視点を意識して】

- ◎コミュニケーションを図る力 < A 人間関係形成・社会形成能力 >
- ◎自分を前向きにとらえる力 < B 自己理解・自己管理能力 >
- ◎見通しをもち、自分の考えをつくる力 < C 課題対応能力 >
- ◎学ぶこと・働くことの意義や自分の役割を理解する力 < D キャリアプランニング能力 >

【このような子どもに】

<単元の目標>

知識及び技能	バリアのある生活の不自由さや障がいがある方々の思いや願いを理解し、それを基に課題を見つけ、解決するための方法を身に付けることができる。
思考力、判断力、表現力等	体験活動や調査活動などから得た情報を取捨・選択して考えたり、ICTを活用して町づくりプランをまとめたりすることができる。
学びに向かう力、人間性等	誰もが住みやすい町にするために、自分にできることを考えることを通して、自分と地域の福祉との関わりを見直そうとする。

3 単元計画（全20時間）

A…人間関係形成・社会形成能力 B…自己理解・自己管理能力 C…課題対応能力 D…キャリアプランニング能力

次	時	学習活動	指導上の留意点（○）、評価規準と方法（◇）	視点
一	1	吉富町には、どのような人が、どのような暮らしをしていて、みんなにとって住みよい町になっているのか話し合い、学習課題をもつ。	○ 学習課題をもつことができるように、町の様々な場所の写真などを提示し、困る人がいないか、どのような所で困りそうかなどについて話し合う活動を設定する。 ◇ 吉富町には、障がいをもった方や外国の方、高齢者など、様々な人が暮らしていることや、住みよい町づくりに向けて努力している人がいることに気付いている。 【知識・技能】《発言・ワークシート》	A・C
		【学習課題】 誰もが住みよい町づくりプランを作り、提案しよう。		
	2 （本時）	車いす体験や車いすを使って生活している方との交流を通して、車いすを使っている方にとってのバリアについて知る。	○ バリアのある生活の不自由さ、思いや願いについて知ることができるように、車いす体験をしたり、実際に車いすを使って生活している方と交流したりする場を設定する。 ◇ 車いすを使って生活している方がどのような思いや願いをもっているか、どのようなことに不便を感じているのかについて気付いている。 【知識・技能】《行動観察・発言》	A・C
	3	アイマスク体験や高齢者体験を通して、目が不自由な方や高齢者の方にとってのバリアについて知る。	○ バリアのある生活の不自由さについて知ることができるように、アイマスク体験や高齢者体験をする活動を設定する。 ◇ 目が不自由な方や高齢者の方がどのようなことに不便を感じているのかについて気付いている。 【知識・技能】《行動観察・発言》	A・C
4	車いす体験や疑似体験を通して気付いたバリアのある不自由さについて整理し、まとめる。	○ バリアのある生活の不自由さを整理し、まとめることができるように、複数の体験で気付いたことを関係付けて考える活動を設定する。 ◇ 車いすを使って生活している方や目が不自由な方、高齢者の方がどのようなことに不便を感じているのかについて関係付けて整理し、まとめている。 【思考・判断・表現】《発言・ワークシート》	A	
二	5・6	校区のバリア・バリアフリーを調査する。	○ バリア・バリアフリーを見つけることができるように、第4時で整理してまとめた不自由なところを視点に校区を調査する活動を設定する。 ◇ 自分たちが住む町のバリア・バリアフリーを進んで見つけようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】《行動観察・ワークシート》	D
	7	調査活動を通して、分かったことを整理し、まとめる。	○ 吉富町にあるバリア・バリアフリーを共有できるように、町の白地図に写真を貼りながら、見つけたバリア・バリアフリーを出し合う活動を設定する。 ◇ 誰もが住みよい町になるためにはどうすればよいのかについて整理し、まとめている。 【思考・判断・表現】《発言・ワークシート》	C
三	8 10	グループごとにだれもが住みやすい「町づくりプラン」を作る。	○ 課題を解決するために必要な情報を集めることができるように、ICT等を活用して調べたり、それを基に話し合ったりする活動を設定する。 ◇ 課題解決のために必要な情報を収集し、町づくりプランを作っている。 【思考・判断・表現】《ワークシート》	C
	11 15	「町づくりプラン」をプレゼンにまとめ、発表の練習をする。	○ 吉富町役場の方に「町づくりプラン」を発表できるように、プレゼンにまとめる活動を設定する。 ◇ 「町づくりプラン」をプレゼンにまとめ、発表の練習をしている。 【思考・判断・表現】《プレゼン》	C
	16	グループごとに町づくりプランを発表し合う。	○ 吉富町役場の方により説得力のある発表ができるようにグループごとに町づくりプランを発表し、アドバイスをし合う活動を設定する。 ◇ 町づくりプランの発表を視聴し、自分の考えを伝える。 【思考・判断・表現】《プレゼン・発言》	C

17・18	発表する「町づくりプラン」を見直し、練習する。	○ よりよい町づくりプランになるように、前時の町づくりプランを発表する活動を受けて、内容を見直す活動を設定する。 ◇ 「町づくりプラン」を見直し、プレゼンにまとめている。 【思考・判断・表現】《プレゼン》	C
四 19	吉富町役場の方に「町づくりプラン」を提案する。	○ だれもが住みよい吉富町にすることができるように、自分たちが調べ、まとめた「町づくりプラン」を吉富町役場の方に提案する活動を設定する。 ◇ 吉富町役場の方に作った「町づくりプラン」を報告している。 【思考・判断・表現】《プレゼン・発言・行動》	B・C
五 20	単元の学習を振り返る。	○ 社会の一員として、小さなことからでもやってみようとする気持ちをもつことができるように、自分たちが今回したことは社会に貢献していることだと価値付け、称賛する場を設定する。 ◇ 自分と地域の福祉との関わりを見直し、自己の生き方を考えようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】《発言・ワークシート》	B・D

4 本時 令和3年11月18日(木) 13:40~14:25 於:多目的室

(1) 主眼

車いすに乗って、段差がある場、狭い場、傾斜がある場などを通る体験をしたり、実際に車いすを使って生活している方の話を聞いたりする活動を通して、車いすを使って生活している方がどのようなことに不便を感じているのか、どのような思いや願いをもっているかについて気付くことができるようにする。

(2) 本時で意識するキャリア教育の視点

意識する視点	意識する視点の具体
A 人間関係形成・社会形成能力	○ 体験したことを基に、感じたことを発表することができる。 ○ 障がいのある方とコミュニケーションを図ることができる。
C 課題対応能力	○ バリアのある生活の不自由さを見つけることができる。

(3) 準備

場の設定(コーン、マット、ロイター板、グレーチング、車いす)

(4) 展開

過程	学習活動	指導上の留意点(○)と評価規準(◇) 意識するキャリア教育の視点(◀▶)と手だて(◎)
つかむ	1 前時を振り返り、本時のめあてをつかむ。	○ 本時のめあてをつかむことができるように、写真や映像等を基に、前時の学習を振り返る活動を設定する。
	【めあて】 車いす体験を通して、車いすで困るところを見つけよう。	
つくる	2 車いす体験をして、感想を発表する。 (1) 実際に車いす体験をする。	○ バリアのある不自由さに気付くことができるように、社会福祉協議会の方と事前に打ち合わせをして、以下のような体験をする場を設定しておく。 ・ 段差がある場 ・ 狭い道を通り抜ける場 ・ 傾斜がある場 ・ 溝がある場

(2) 車いす体験をした感想を発表する。



ぼくが特にこわいと思ったところは、段差があるところです。車いすがなかなか動かなかったり、「ドン」と衝撃があって車いすから落ちそうになったりしました。だから、車いすに乗っている人は、ちょっとした段差でもとても困ることが分かりました。



全ての場を体験してみて思ったことは、どれも一人では大変だということです。段差や溝、傾斜のあるところは力があるし、狭いところは一人ではとても不安になったからです。だから、車いすに乗って困っている人がいたら、力を貸してあげたいです。



実際に車いすを押したのは初めてでした。思っている以上に力があるのだなと感じました。段差があるところで人が落ちたり、溝にはまって動けなくなったりしないか不安になりました。押す人も大変なんだなと思いました。

深める 3 実際に車いすを使っている方と交流する。

(1) 実際に車いすを使っている方の話を聞く。



私は、電車で外出することがありますが、吉富駅には、スロープがあって、車いすの人でも乗り降りできるようになっています。

(2) 実際に車いすを使っている方へ聞きたいことを質問する。

振り返る 4 本時の学習を振り返る。

車いす体験や車いすを使って生活している方の話を聞いて、車いすで生活している方の変り加減が分かりました。特に段差があるところは一人で車いすを動かすことができず、このようなところで困っているということが分かりました。ふだんの日常生活の中でそんなところがないか見たり、もし困っている人がいたら助けたりしたいと思いました。

◎ 町づくりプラン作りに活かすことができるように、実際に車いすを使っている方に、町の中で生活する上で困っていることや改善してほしい場所について聞く活動を設定する。

< A 人間関係形成・社会形成能力 >

◎ コミュニケーションを図ることが苦手な子どもが進んで質問することができるように、事前にグループで質問を考えて準備する時間を設定しておく。

◎ 本時の学習を振り返ることができるように、㊦（分かったこと）、㊧（もっと調べたいこと）の2つの視点を基に、振り返る活動を設定する。 **< C 課題対応能力 >**

◇ 車いすを使って生活している方がどのようなことに不便を感じているのか、どのような思いや願いをもっているのかについて気付いている。

【知識・理解】《観察・発言》

